

心疾患児の生活指導指針に関する研究

分担研究者	日本大学小児科	大 国 真 彦
研究協力者	東京女子医大循環器小児科	高 尾 篤 良
	島根医科大学小児科	森 忠 三
	東京医科歯科大学小児科	保 崎 純 郎
	弘前大学医療技術短大	川 村 幸 悦
	横浜市立大学小児科	新 村 一 郎
	福岡こども病院	本 田 恵
	国立循環器病センター小児科	神 谷 哲 郎
	都立小児保健院	松 尾 準 雄
	筑波大学心身障害学系	長 畑 正 道
	愛育会総合母子保健センター	高 橋 悦 二 郎

I. 共同研究

慢性心疾患児においても、健康増進と体力増進を考えなければならないことは明らかであるが、従来はややもすれば日常生活においてこの視点からのとらえ方がおろそかにされていた。

本研究班においては、慢性心疾患を有する小児について、体力をつけるためにはいかに運動させるべきか、運動許可基準を確立することを一つの目標として発足した。

共通課題として、心疾患児においては、どのような運動負荷を行ってその反応を評価を行うべきかという研究を行ったが、研究者の結論は Bruce の変法によるのが最も適当であろうということになった。

今後この方法により症例を増し、病型毎の基準を作成してゆくことが必要と考えられる。

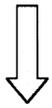
もう一つの心疾患児の心理面の研究については、心理テストの方法が確立しておらず、今年度は多少の試みがなされたことにとどまった。この点については、小児慢性疾患臓器系研究班全体の共通テーマとしてとらえて、心理面の評価法の統一をまって実施する予定である。

II. 各個研究

各研究協力者の各個研究として、主として心疾患各病型に対する運動負荷に関する研究が行われ、一部よりは対照としての正常児の運動に対する反応に関する研究が発表された。

また心理面に関する研究も手がつけられた。

なお今年度はとくにこの研究班に含めて、心理指導に関する研究グループと、母子健康手帖に関するグループの研究が行われた。その報告もここに含める。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1. 共同研究

慢性心疾患児においても、健康増進と体力増進を考えなければならないことは明らかであるが、従来はややもすれば日常生活においてこの視点からのとらえ方がおろそかにされていた。

本研究班においては、慢性心疾患を有する小児について、体力をつけるためにはいかに運動させるべきか、運動許可基準を確立することを一つの目標として発足した。

共通課題として、心疾患児においては、どのような運動負荷を行ってその反応を評価を行うべきかという研究を行ったが、研究者の結論は Bruce の変法によるのが最も適当であろうということになった。

今後この方法により症例を増し、病型毎の基準を作成してゆくことが必要と考えられる。

もう一つの心疾患児の心理面の研究については、心理テストの方法が確立しておらず、今年度は多少の試みがなされたことにとどまった。この点については、小児慢性疾患臓器系研究班全体の共通テーマとしてとらえて、心理面の評価法の統一をまって実施する予定である。